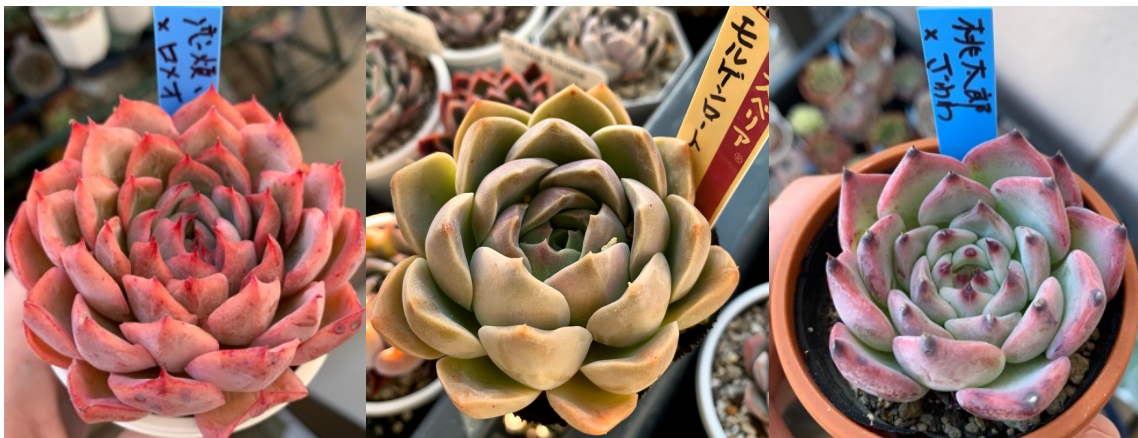


Border Break Beautiful.

種の壁を越えて生物を魅了する植物たち

「放射線腫瘍医のステキな週末」の寄稿依頼を賜りました、入局2年目の堀込瑛介と申します。今回は私の趣味である植物栽培：多肉植物と食虫植物について語りたいと思います。

<多肉植物>



多肉植物の中でも *Echeveria* (エケベリア) 属の品種を中心に愛でています。原産地はメキシコなどの中央アメリカや北アメリカ。乾燥に強く、耐寒も比較的優れているため、日本でも多くの品種が流通しています。現在、愛好家人口が急増中です。

エケベリアの魅力はロゼット状の葉の展開と発色です。ロゼットの美しさは多肉植物随一と言えます。葉の色は普段緑ですが、秋・冬に紅葉します。紅葉の発色は赤だけでなく、品種によって黄色やオレンジ、紫、ピンクなどさまざまです。紅葉の時期は葉の展開が一年で最も美しく、まさに薔薇が咲いているようです。

エケベリアの中でも現在人気なのが交配種です。特に交配が上手い、美しい交配種を作る生産業者・趣味家の苗はブランド化しています。代表的な業者・趣味家はいずれも小規模で生産しているため、定期的に出回るものではなく、販売イベントに不定期に出店されています。私たち“タニラー”（多肉植物愛好家の通称）は各イベントで人気業者の出店があれば全国津々浦々“多肉狩り”に参戦します。

イベントはタニラー同士交流する場ではありますが、参戦の言葉の通り、競い合う場もあります。販売株が毎回潤沢にあるわけではなく、販売数より参加者数が上回ることが多いです。そのため購入順が重要となります。購入順の決定の多くは抽選です。こればかりは祈るしかありません。次に重要になるのが、短時間で良苗を選別する目利きです。同じ交配式でも形質に個体差があります（紅葉の色・濃淡、長葉 or 広葉 等々）。タニラー毎に好みの形質が

あり（私は紅葉が濃く、肉厚幅広な葉、葉の先端の突起：通称“爪”が立派な苗が好みです）、販売会場に入場したら 100~200 ある販売株の中から短時間で好みの株を発見する必要があります。時間がかかると後続で入場した参加者に先を越されます。過去に私より後続で入場した方の購入品が私の購入品（同じ交配式）より遥かに美しく後悔した経験があります。とはいえ、そのような一喜一憂も含めイベントは楽しいです。

<食虫植物>



食虫植物の中でも *Nepenthes* (ネペンテス：和名ウツボカズラ) 属の品種を中心に愛でています。ウツボカズラは主に赤道直下の熱帯雨林に自生しています。自生地環境は日本と大きく異なるため、基本室内で温暖多湿な環境を作り栽培しています。我が家ではショーケースに加湿器とファンを設置し、日照はLEDを使用しています。温度調節は部屋のエアコンです。設備投資が必要で栽培難度がやや高いため、愛好家人口は多肉植物より少ないです。

ウツボカズラの魅力はもちろんつぼ(捕虫袋)です。捕虫袋は画像の通り、葉から伸びる蔓の先端にできます。袋の形状や色・模様、襟は多種多様です。特に襟はカラフルで魅力的です。捕虫袋は適切な生育環境でないとつきません。朝と眠前にショーケース内の温湿度計と天気予報を確認し、加湿器やエアコンの設定を考えます。

食虫植物を栽培していると話すと決まって受ける質問が「餌に虫あげているの？」です。答えはNOです。そもそも食虫植物は貧栄養な土地に自生し、栄養を土壤からだけでなく、捕虫することで虫からも得るように進化しました。意図的に虫を与え続けると、栄養過多になり捕虫袋をつけなくなり、株自体の免疫が下がります。

枚数制限の関係上、ここまでとなりますが、まだまだ話は尽きません。少しでも興味が湧いたら遠慮なく話しかけてください。もちろん栽培の相談も受け付けております。